

医学教育センター完成！

医学教育センター長 今井裕一

5月14日（月）に大学本館7階に医学教育センターがオープンしました。平成16年4月に設立されて以来、ハード面としての施設について理事長、学長、事務局長と相談を重ね、ようやくオープンすることが出来ました。ソフト面についても、昨年10月16日から福沢嘉孝先生が教授として、また本年5月から林省吾先生が講師として着任し充実してきています。本センターは、愛知医科大学医学教育の中核を担う組織で教学の中心となるものです。活動の拠点としてのスペースが整備されたことと専任教員が配置されたことは、今後の愛知医大のさらなる発展の原動力となることでしょう。関係各位のご協力とご支援に感謝いたします。

センター内には30名程度の会議室、個別相談室、教員室があります。医学教育関連誌等を常置し「資料閲覧室」、他大学のシラバスなど開放しております。現在、学生開放スペースは空いていますが、小規模なスキルス・ラボをつくる予定にしています。7階の父兄会室の向かいにありますので、皆様ぜひ一度お立ち寄りください。

医学教育センター Medical Education Center, Aichi Medical University School of Medicine (AMEC)



5月15日（火）に行われた内覧会の様子

医学教育センター専任教員の紹介

「医学教育向上プロジェクト委員会」
で愛知医大の教育を活性化！！

医学教育センター
教授 福沢嘉孝



平成 18 年 10 月から医学教育センターの専任となりました福沢と申します。

このたび、「よい教育を目指すためには、学生の意見に耳を傾けるべきである」との考えから、当センターに「医学教育向上プロジェクト委員会」を設置しました。これは、学生（各学年から数名ずつの代表）と医学教育センター教員で構成し、本学の医学教育について、学生と教員が直接意見交換する場であります。国試対策、カリキュラム策定・改訂、教員に対する評価、進路指導などを学生の視点で気軽にディスカッションできる委員会を目指しています。

現状の医学教育に対する学生の意見を参考にして、今後の教育システムの改革に生かしていきたいと考えております。

医学教育を動かすスタートは、
それに関わる多くの学生、先生、職員、
そして社会の皆さんからの「声」

医学教育センター
講師 林 省吾



皆さん、はじめまして。医学教育センターに専任講師として着任した 林 省吾と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、私は先日まで、東京医科大学で解剖学の研究と教育に従事していました。解剖学は「臨床でも重要な基礎科目」と評価される一方で、「とにかく詰め込むしかない暗記科目」というイメージを持たれやすい科目でもあります。「解剖学の面白さをどのように伝えるか」いつも考えて参りました。一例を挙げましょう。明日解剖学実習の試験を受ける自分を想像して下さい。その試験が図も模型も標本も使わない、ただただ 100 問の知識を問う「橈骨一 (Radius)」式の穴埋め試験だったらどうでしょう？ そのような状況で、皆さんは今まで取り組んできた解剖学実習を、どう思うのでしょうか？「あんなに真面目に実習するくらいなら、ラテン語できちんと名前を覚えてればよかった！」と感じないでしょうか？後輩にはどんな教科書やアトラスよりも、まず「骨単」を奨めるのではないのでしょうか？ 学習と評価方法が合致していないと解剖学以外でも同様の事態に陥ってしまうのです。

皆さんはこのような事態に直面して、「あきらめる」ことしかできないのでしょうか？ 医学教育の原動力は、それに関わる多くの学生、先生、職員、そして社会の皆さんからの「声」です。どうかこのセンターに多くの「声」を聞かせて下さい。私自身まだまだ浅学非才ではありますが、皆さんの声が実際の教育を少しでも良くするように微力を尽くしたいと思います。大学に関わるあらゆる学生、先生、職員、そして社会の皆さんの「声」と「手」が、この大学の教育の隅々に頭を叩くことを願っています。